

# 6月号 アグリワークポイント（ミカン）

## 『生理落果期』

温州みかんは生理落果期を迎えます。この時期の樹体の栄養状態および天候が今後の着果や果実生育、品質に影響を及ぼしますので、適切な肥培管理・病虫害防除が重要です。

生理落果は、幼果と新梢の栄養分の奪い合いによって引き起こされます。早く新梢を緑化させることが生理落果の抑制に繋がります。

## 【着果管理】

### 《着果の多い樹》

生理落果の状況を見て、枝別全摘果や樹冠上部摘果を行い、樹への負担を軽減させましょう。

### 《着果の少ない樹》

新梢の芽かき・摘芯を行いましょう。また、被さり枝は除去し、果実に光を当てて着果率の向上に取り組みましょう。

### 《葉面散布》

着果の多い樹は樹勢維持・回復を。着果の少ない樹は、早期の緑化により生理落果軽減を目的に、尿素 500 倍を 5~7 日置きに 3 回程度散布しましょう。

## 【夏肥】

夏肥は施肥の基本になります。吸収効率が高くなる初夏に合わせ、早生温州は 5 月下旬までに、青島温州は 6 月上旬までに施肥してください。夏肥の施肥が遅れ、9 月以降に遅効きすると、浮皮の原因や着色の遅れに繋がりますので適期に行いましょう。

- ・青島温州 みかん化成 1 号 60 kg/10 a
- ・早生温州 ダブルクイック 668 40 kg/10 a

※春肥（3月）に柑配ロングを施肥した園では夏肥は施用しません

## 【病虫害防除】

気温の上昇や雨量の増加とともに病虫害の発生も増えてきます。園地の状況を確認し、効果的な防除を行ってください。農薬散布時には他作物への飛散や適正使用基準に注意しましょう。

6月上旬

- ・黒点病 エムダイファー水和剤 600 倍（60 日 - 2 回）
- ・チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類 アクタラ顆粒水溶剤 2000 倍（14 日 - 3 回）

※黒点病防除後、30 日を経過するか累積降雨量が 250mm になった時点で薬剤の効果が弱まりますので、黒点病の再防除を行ってください。

前年ミカンサビダニの発生が見られた園地では 6 月下旬にサンマイト水和剤 2000 倍（3 日 - 2 回）を散布しましょう。